



もうそろそろ梅雨の時期になりますね。皆さんどのようにお過ごしでしょうか。
今回はじめじめした季節におきやすい水虫について触れてみたいとおもいます。

水虫の原因

水虫とはカビの一種である白癬菌(はくせんきん)が皮膚の角質層などに寄生することによって起こる皮膚病です。

白癬菌は皮膚の角質層や爪、髪の毛などに存在するケラチンというタンパク質を栄養源として繁殖します。白癬菌は体中どこにでも寄生する可能性がありますが、主に発症する部位は足です。足に発症しやすいのは一日中靴を履いて過ごす、靴の中が高温多湿となり、菌が繁殖しやすい条件となるためです。

白癬菌は寄生した部位により病名が変わり、頭部ではシラクモ、内股ではインキンタムシ、体ではゼニタムシとなります。

足の水虫の種類

足の水虫は3種類あります。

1) 趾間(しかん)型: 足の指の間にできる水虫です。赤くジクジクとしてただれて皮がむけたり白くふやけてぶよぶよになります。一般的に水虫と言われるものがこれに当たります。

2) 小水疱型: 足の裏やふちに小さな水ぶくれができ、日が続くとだんだん赤くなり、かゆみを伴って皮がむけてきます。

3) 角質増殖型: 足の裏やかかとなどが、かさかさして皮が厚くなり、ポロポロと皮が剥け、ひび割れやあかぎれをおこします。かゆみを伴うことがないため、水虫の自覚症状があまりなく気付かない人が多いようです。

その他に足の水虫が悪化するとよく発症する爪水虫があります。爪水虫は傷などによって白癬菌が爪の中に入り込み爪が白っぽくなったり、爪の先端が分厚くなったりします。

水虫の治療と薬

水虫の治療には日頃のお手入れが大切です。

石鹸を使って足の指の間などよく洗い、その後綺麗に洗い流してから乾燥させてください。

治療薬には、塗り薬と飲み薬の2種類があり、基本的に塗り薬で治療していきます。

塗り薬は毎日よく擦り込むようにして塗って下さい。一見正常な皮膚でも白癬菌が広がっていることが多いので、患部のみではなく、その周りも広く塗るようにして下さい。

水虫は短期間で腫れや赤みが引きますが、そこで治ったと思い治療を中断してしまうと再発をくり返すことになります。**白癬菌は皮膚の角質層に潜んでいますので、この角質層が代謝されて新しく入れ替わるまでの期間(約1ヶ月)は最低でも塗り薬を塗り続けなければなりません。**

逆に水虫を早く治そうと思い、1日に決められた回数以上に塗ると皮膚が荒れたり、かぶれたりしますので1日の回数を守って根気よく治療していきましょう。

飲み薬は角質増殖型や爪水虫など、皮膚の角質の奥深くに白癬菌が入り込んでしまい塗り薬だけでは治療が困難な場合に用いられます。

1週間以上塗り薬を塗ったり、内服薬を服用しても症状が改善しない場合は他の病気が考えられますので、皮膚科医を受診して医師と相談して下さい。